

NEWS LETTER

Vol.1 開催日2019.5.23

発行：基幹型包括支援センター
NPOまち育てセンターりた、岡崎市長寿課
20の地域包括支援センター

～地域包括ケアと地域共生社会の実現に向けた学びを共有するゼミ～
今回は、広報支援モデルを取り上げます。

子どもから高齢者まで、包括を知ってほしい！
by スクエアガーデン包括（羽根学区、城南学区）

【地域特性】平成28年にスクエア包括が開設となったため、他の包括よりも周知ができていない可能性が高い。岡崎駅周辺は区画整理と開発が進められており、マンション、アパートも多い。大型ショッピングセンターも近く、バスの利便性も高い。

【内容】

・課題／若い世代の包括の周知率が低い、高齢者でも包括の周知率は約50%と推測できる。集合住宅もあり外国人も多い。

・成果／媒体ごとに企画書を作成することで、誰に何を伝えるために作成するのかを明確にすることができた。

【助言】広報の目的を明らかにするとともに、媒体を整理する。媒体ごとに企画書を作成する。広報誌作成のポイントは、余白を生かす。フォントは3種類まで。キャッチをつける。 などなど

包括支援の目的&狙い

包括の認知度を上げるとともに役割を知ってもらうこと。地域活動の情報も発信しながらコミュニケーションツールとしても広報誌を活用する。

今回のキモ！



包括の周知を進めるために配布しているポケットティッシュ。ポケットティッシュに入れるイラストを手作り。バリエーションを作ることで、もらった人が見せ合う面白さが生まれる。読んでもらうための一工夫が思わぬ効果に。

包括支援の目的&狙い

ふくまどが気軽に相談できる場として認知されること。地域の商店・企業との気軽な連携と、関係機関との連携強化を目的に、効果的な広報活動を検討し、実施する。

丸ごと相談、丸ごと地域づくりを始めます！

by ふくまど／福祉総合相談窓口（額田地区）

今回のキモ！



5W1Hを意識して、広報誌を何のために作成するのか簡単な企画書で整理してみても？受け手の気持ちになって、参加者メリットも入れよう！

【地域特性】平成30年2月に福祉相談窓口を設置。圏域全体が山間部に位置し、集落ごとのつながりは強いが、市街地からは距離が離れている。平成18年に岡崎市と合併し、学区を見直し。福祉委員会の活動は盛んであるが、福祉委員会と他の組織のつながりは弱い。

【内容】

・課題／社会福祉協議会、地域包括支援センター、健康増進課という担当者が交代で作っていたので、バラバラ、掲載内容の計画もなかった。

・成果／広報誌を検討する中で、事業の目的の再確認、チームで共通認識ができた。年間の計画を立てることで、チームで統一した見解を持つことができた。

【助言】周知媒体を作る際、特に大人数や他機関の連携によって1つの企画を成し遂げるには、簡単でも企画書が必要。フォントの効果的な使用、コーナータイトルの設定、キャッチをつけるなど、その企画に沿って読みやすくするための工夫ができるとよい。 などなど

編集後記：広報支援モデルは、チラシのレイアウトやフォントのかなあと軽く考えていたのが大間違い。何のために誰に広報するのか整理することから始め、相手の立場に立って見直していくと、自然に事業の見直しにつながっていました。とは言っても、忙しい包括の中では後回しにしがちだった分野。18のセンター職員から見ると「手間が増えるなあ」と思われるかもしれませんが、「手間を減らすために効果的な広報活動をする」。集客、地域包括ケアの周知、皆さんの動機づけにつながるのであれば、手間も惜しまない？？？